

## 第三者評価結果入力シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 NPOかなびの丘

### ②評価調査者研修修了番号

S18057

SK18224

### ③施設名等

名称：	大阪水上隣保館乳児院
施設長氏名：	丸谷 邦江
定員：	32名
所在地(都道府県)：	大阪府
所在地(市町村以下)：	三島郡島本町山崎5丁目3-20
T E L：	075-961-0091
U R L：	<a href="https://osakasuijorinpokan.org/nyujiin/">https://osakasuijorinpokan.org/nyujiin/</a>
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1969/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 大阪水上隣保館
職員数 常勤職員：	38名
職員数 非常勤職員：	46名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	62名
有資格職員の名称（イ）	看護師
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	調理師
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（カ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	5室（小規模グループケア含む）
施設設備の概要（イ）設備等：	病児室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

### ④理念・基本方針

【理念】法人の基本理念「援助を求める人がいるならば、手を差し伸べるキリスト教の愛の奉仕の精神」を基盤とし、創設者の「隣人への愛」に基づき子どもたちの「育つ力」を最大限に引き出し、支え、自らを「愛される存在」「大切な存在」として認識し、高い自己概念、自尊感情、自己肯定感をもって成長していくための土台を作り、育む。

【基本方針】①安心と安全を保障し、育つ喜びを感じられる環境作り ②創造性と探求心を育む環境づくり ③信頼できる大人とのアタッチメントの形成と継続 ④発達に応じた健全な発育の促進 ⑤食育を通じた安全で楽しい食生活の推進 ⑥家庭的な環境における養育・支援の展開

### ⑤施設の特徴的な取組

1. 里親支援機関を開設し、子どもと里親とのマッチングをはじめ、里親の養育支援・養育スキル向上の取組みなど、乳児院の多機能化の活動に積極的に取り組んでいます。
2. 子どもが安定した愛着関係が築けるように、担当養育制による支援を行い、措置変更前には「つなぐ保育」を、退所後は「つづくケア」により人と人の関係を継続する子どもファーストの支援に努めています。
3. スーパーバイザーによる「安心感の輪・子育てプログラム」の研修を全職員が受講し、アタッチメントへの理解を深めるとともに、日々の支援活動に反映する取組みが行われています。

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/7/31
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2021/6/30
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

## ⑦総評

### ■特に評価が高い点

1. 安定した信頼関係を基盤とした支援：施設長と主任・副主任を主軸に、リーダー・保育士の支援機能と、家庭支援専門相談員・心理士・看護師・栄養士・里親支援機関等の専門分野の援助機能が、日常的に協働され、乳幼児への継続した良質の養育・支援が提供されています。

2. ピア自己評価：自己評価は毎年実施されています。特に、今回はこれまでの職員一人ひとりが自己評価したスタイルから、「中堅以上の職員と経験の浅い職員とが2人1組で各項目について話し合い評価する」スタイルを取り入れています。自己評価結果にも表出されていますが、経験の浅い職員は、運営管理、養育支援項目について知識・現場対応経験の薄い部分を、今回の評価の取組みにより、先輩からのアドバイスで施設業務全般について認識を深めることができると同時に、中堅職員は、普段「当たり前」と特に意識していなかったことが、経験の浅い職員へのSVを通して再認識された結果が表れています。この取組みは、施設・職員双方に、「ピア研修」の役割も果たし、施設機能の向上につながる新たな工夫として評価できます。

### ■改善が求められる点

1. 人事評価制度実施に向けた法人の指導力の発揮：一昨年、法人は、人事評価制度の導入に向け、仕組みや方法・基準を定め、1年半の試行期間を設けて本格実施に入るスケジュールも示しましたが、施設間の足並みが揃わず、現在は滞った状態です。当乳児院で行なった試行では、明らかに面接の効果と解される各職員に意欲の高揚傾向が見られ、養育支援の質の向上への予想以上の副産物が得られたとしています。今後、各施設における人事評価制度の早期のスタートに向け、法人としての指導力を発揮することが強く求められます。

2. 居場所の工夫：建物の構造上の限界や制約も多くありますが、乳幼児の発育に必要な環境整備として、乳幼児自身で、居室・保育室・寝室の区別と機能認識ができるよう視覚的な面などからの工夫が望まれます。

## ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回、私どもが自施設についてきちんと説明しきれなかった部分も、聞き取りの中から拾い上げてくださったり、細やかなところまで丁寧にお話いただきました。中でも、ヒヤリハットや職員の研修についての取組みについては、具体的にご指導いただき、すぐに手をつけることができました。今後、まだまだ取り組むべき課題がたくさんあることに気づかせていただき、本当にありがとうございました。

## ⑨第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（乳児院）

### 共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。□	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
【判断した理由・特記事項等】	
■理念・基本方針は、法人の理念・基本方針に基づき、乳児院の使命と職員の役割を明記したものがしっかりと策定され、パンフレットはじめ例年の事業計画にも記載され、職員と利用者に周知されています。	

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
【判断した理由・特記事項等】	
■定例の法人会議・所属長会議等を通して社会および地域の福祉の動向を把握するとともに、児童養護も含めた入所やショートステイ等の現況から子ども像を把握しています。	
■今後、入退所理由等を複数年にわたり詳細に分析・検討し、地域の子育て、特に乳幼児へのニーズや課題をより一層把握することで、運営計画に反映する取り組みが望まれます。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
【判断した理由・特記事項等】	
■法人役員と施設長を中心に、小規模化や地域分散型等の推進を含む家庭的養護の推進計画が策定されています。また、その計画の実現に向けた「人材・財源・設備」に関する課題と対応を明確にし、職員への周知とともに施設・職員一体となって着実に進められています。	

#### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
【判断した理由・特記事項等】	
■中長期計画として、家庭的養護推進計画に沿った施設整備計画が策定され、それに基づいて着実に具体化を進めています。今後、計画を進めるうえでの人材確保や育成に関わる職員のより質の高い体制整備が期待されます。	
② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
【判断した理由・特記事項等】	
■事業計画は基本理念や援助目標が大半を占めています。これら総論の具体的な活動展開として、地域交流行事、実習生・ボランティア受入、職員研修計画はじめ各支援グループ単位の年間活動目標などの記載が望まれます。	
■また今後、それらに加え、乳児院の機能、実際の役割等について、社会に向けた情報発信の取り組みが望まれます。	

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■事業計画はグループ会議で作られた素案を運営委員会で検討し、場合によっては再度グループ会議で検討したものを、法人役員会議のヒアリングを経て確定する全職員協働の仕組みがとられています。</p> <p>■事業の施行にあたっては、定期的にグループ会議や職員会議で検討され、子どもの状況や最近ではコロナウイルス関連の影響などを考慮した適切な対応がなされています。</p>		
②	7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■事業計画の主な内容の説明・周知は、入所時や面会・外出・外泊等で保護者が来院した時になされていますが、その中身を、行事の案内にとどめず、施設及びユニット毎の取り組み等イキイキした情報を提供することによって、保護者等の関心を高めるための工夫が望まれます。</p>		

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■今回の自己評価は、経験の豊富な職員と経験の浅い職員による共同作業で実施されました。各項目について、互いの意見を交え、評価精度と効果を高めるための工夫は評価できます。</p> <p>■自己評価を通してより鮮明になった支援現場の実状と課題を可視化する仕組みを設け機能させ、子どもの養育・支援の質の向上に反映していく取り組みが望まれます。</p>		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■例年実施されている自己評価の集約結果は、グループ会議や職員会議等を通して職員に周知され、その課題と改善の対応は適時取り組んでいます。</p> <p>■今後、自己評価の分析・課題抽出、改善への取り組みは、施設としてはもちろん、課題によっては法人事業として計画性をもって取り組み、より質の高い施設運営や養育支援につなげていくことが望まれます。</p>		

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■施設長の役割と責任は、管理規程に明示され職員への周知が図られています。一方、保護者や関係機関に情報提供する広報誌やホームページには「施設長あいさつ」の記事にとどまり明確には示されていません。</p> <p>■職務分担表などへの記載とともに、施設長の役割と責任について、保護者はじめ地域や関係機関・団体等への更なる周知のあり方にも工夫が望まれます。</p>		

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■施設長は、法人の法令遵守の精神とともに、乳児院のみならず社会福祉を取り巻く、権利擁護をはじめとした数々の法令・条例等を把握するとともに、法に則った施設運営の指示・伝達を行なっています。</p> <p>■今年度は特に、新型コロナウイルス感染拡大防止、新しい生活様式の遂行など、変化する社会生活の状況を的確に把握し、その対策・対応について職員会議等を通して周知徹底を図り、乳幼児の安全に全力で取り組んでいます。</p>		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■養育・支援の質の向上につながる10の定例会議を立ち上げ、施設長みずからも積極的に参加し職員と意見交換をしています。</p> <p>■施設長は、職員一人ひとりとも個人面談を実施しています。会議や面談で把握した課題や改善点については、内容によっては施設全体の検討事項としてその課題の検討・改善に向けて取り組んでいます。</p>		
②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■施設内では、グループ会議、リーダー会議で話し合われた内容は運営会議で取り上げられ、さらに職員会議で全職員に周知される仕組みが機能しています。内容は、予算（「何にお金を使うのか」）から勤怠管理分野まで広範囲に及んでおり、今後、会議での話し合いが、法人組織の人事、財務等の分析にまでつながっていくよう、一層の充実が望まれます。</p>		

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■法人としては、乳児院をはじめ各施設に必要な人材やその配置について、整っている状況です。</p> <p>■今後も、乳児院に必要な専門分野の人材確保及び定着について、法人と連携し支援の質を高める更なる計画的な人材確保の取り組みが期待されます。</p>		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	c
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■一昨年、法人から人事評価制度導入についての方向性が示され、当施設では試行スケジュールに沿って、施設長による職員一人ひとりへの面談の取組みがなされてきました。しかしながら各施設の足並みが揃わず、現在は滞った状態です。</p> <p>■職員自身が、自己の立ち位置を現状掌握でき、勤労意欲の向上につながる将来の展望が描けるための仕組みが機能することは重要なことです。法人として指導力を発揮し、早急に人事評価制度の実施を促していくことが求められます。</p>		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■職員の勤怠については定期的に確認・管理するとともに、就業状況も把握されています。</p> <p>■今後は、職員一人ひとりが乳児院職員としての役割・使命感を高めたり、福祉の職場に継続して携わろうという前向きな意欲を引き出すことのできる、就労環境や福利厚生を整えていくことが望まれます。</p>		

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■法人から示された「人事評価制度の導入について」の試行スケジュールに沿って、施設長や主任が中心となり、職員一人ひとりへの面談が行なわれ、その効果と見られる支援の質の高まりも実感されています。</p> <p>■今後は、養育・支援の更なる質を高めるため、職員一人ひとりが設定した目標の進捗状況及び遂行上の課題・対応策等に対する、より充実したSV面談・人事評価面接等の実施を、施設として実施していかれることが望まれます。</p>		
②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■法人の職員合同研修や新人研修をはじめとする施設内研修、外部研修への参加は積極的に行なわれています。</p> <p>■今後は、施設内外研修に参加した職員と研修テーマを、複数年度を通して一覧表にするなど、計画的な人材育成のため取り組みが望まれます。</p>		
③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■施設として、内外の研修への参加・派遣に積極的に取り組まれています。研修の企画や外部研修への派遣については、職員一人ひとりの経験や専門分野・資格等を把握した中での対応が望まれます。</p> <p>■研修で学んだ内容・情報は広く職員全体で共有するとともに、養育・支援上で重要なものについては、主任や副主任指導の下で、より具体的なスキル向上につなげるための取り組みが望まれます。</p>		
(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■実習生受け入れに関するマニュアル・カリキュラムが明文化され、保育士をはじめ社会福祉士、調理師、心理士と幅広く受け入れ、専門職種に応じたプログラムをもって実習に取り組んでいます。</p>		
<b>3 運営の透明性の確保</b>		
(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■法人、施設の理念や基本方針・事業活動などは、ホームページや法人機関紙を介して、利用者はじめ関係機関、地域機関・団体に情報提供されています。また、年2回発行の機関紙で法人内各施設の紹介がなされ、パンフレット及び入所のしおりとともに、事業の情報提供が行なわれています。</p>		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■経理規程に基づいた事務、経理、取引に関しては、各施設には法人の会議、職員に対しては職務分掌を介して周知され遂行されています。また、法人会議や施設長会議での内部チェックや外部の監査法人による監査体制が整い機能しています。</p>		

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> ■当施設は、自然に囲まれた山の中腹に位置し、乳幼児にとっては地域との日常的な接触は皆無と言える環境にあります。その中であっても、地域との関りについて基本姿勢を文書化し、四季の自然環境を活用した「桜バザー」等の法人行事を開催し、参加される地域の人々と子どもとの交流の機会を持つなど、積極的な工夫がなされています。	
② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> ■ボランティア受入れマニュアルを整備し、その基本姿勢に基づいて「だっこボラ」「縫ものボラ」を受け入れています。施設がボランティア一人ひとりの保険に加入するとともに、活動に際しての配慮事項等をしっかりと伝えています。また、施設見学やインターシップ等、地域の学校教育への協力についての基本姿勢を明確にしています。	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> ■乳幼児の安全確保のため、特に医療機関との関係を密にするほか、要保護児童地域連絡協議会にも積極的に参加し、入所前・退所後の子ども虐待防止や子育て支援に関して、関係諸機関と積極的に協働しています。	
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> ■法人は、行事案内、連絡会や祭への参加等を通じて地域との交流の機会を持っていますが、乳児院では、法人行事への参加は施設長にとどまり職員まで浸透していません。 ■今後は、施設開放などに加え、乳児院が長年培ってきた子育てのノウハウを地域に提供しながら、様々な形での協働を目指しての積極的な取り組みが期待されます。	
② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> ■法人としては、広域の福祉ニーズを把握し、公益的な事業・活動に取り組んでいます。施設では、里親支援機関を付設するとともに、子育て支援短期利用事業や一時保護委託の充実などに力を注いでいますが、専門性の地域還元はもとより、一歩進んで、地域コミュニティ活性化への多面的な役割を模索することが望まれます。	

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

		第三者 評価結果
(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
■法人主体の人権研修をはじめ、施設内研修や外部研修への積極参加、また、日ごろのOJTを介して、子どもの最善の利益を念頭においた養育・支援の質向上への取り組みが着実に実践されています。また、日々の支援現場での具体的な関わりについても、グループ会議で話し合い、チームで共有することによって適切に対応が図られています。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
【判断した理由・特記事項等】		
■「乳児院ご利用のしおり」には、理念や基本方針、担当養育制、個人情報保護、苦情・相談窓口等の運営体制とともに、生活と行事に関する情報が記載され、保護者と協働した子育て支援の姿勢がわかりやすく記されるなど、保護者の安心につながる取り組みがなされています。		
②	31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。	a
【判断した理由・特記事項等】		
■養育・支援の開始の説明はしっかりと行なわれ、私物や金銭の管理、予防接種の同意等については、書面を取り交わしています。わが子を預ける保護者の立場に立って、職員は、保護者に「安心と継続した関わりを持ってもらう」ため、優しく丁寧な説明と対応を心がけています。		
③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
■家庭復帰や里親委託、児童養護施設等への措置変更の際には、子どもにとって安心できる大人との関係をつないでいく「つなぎ保育」のきめ細やかな取り組みがなされています。 ■退所後の支援については、子どもが味わう離別体験の中で見捨てられ感を少しでも軽減するための「つづくケア」に力を注いでいます。この仕組みは、子どもと養育を引き継いだ大人（保護者・里親・施設職員等）双方にとって意義ある取り組みとして高く評価できます。		
(3) 子どもの満足の向上に努めている。		
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
■子どもの満足を把握する仕組みとして、担当者が収集した情報を一人の視点でなく職員全体で共有し、グループ会議で検討する仕組みが機能し、子どものより充実した生活へ反映させています。 ■保護者の要望や意見の把握には、書面によるほか直接コミュニケーションの手段もとられています。		



(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■ 玄関に意見箱が設置され、苦情解決事業の説明が掲示されています。保護者に対しては、「乳児院ご利用のしおり」に掲載し入所時に説明・周知がなされています。</p> <p>■ 今後、保護者が意見表明する相手（第三者委員、理事長、施設長、〇〇職員）を選択できる用紙の準備など、より施設と利用者の子育て協働の機運が高まる取り組みに期待します。</p>		
②	35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■ 子どもと離れて暮らす保護者にとって、子どもの施設生活について、わが子から詳細な情報収集は困難な分、心配事や不安な気持ちは多々生じます。施設では、日々の子どもの成育が目に見えるように画像だけでなく、お絵描き用紙や手形を取って残すなどの工夫をしています。また、親子には、子どもの担当者だけでなく家庭支援専門相談員やグループリーダー・ユニットリーダーも担当者に協力して保護者の心情に積極的に寄り添っています。</p>		
③	36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■ 保護者からの意見や相談は、意見箱の設置や面談等により受け付け、また事例によっては複数の職員で対応するなど、工夫しながら取り組んでいます。</p> <p>■ 今後、保護者等からの意見を「苦情」と「相談・意見」に区分し、それぞれに応じた記録、公表等の対応が望まれます。</p> <p>■ 例規集にある対応マニュアルの見直しと新たな整備も求められます。</p>		
(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■ 施設長を責任者としてリスクマネジメント管理体制は整備されています。マニュアルも明確で、職員会議等で周知されています。</p> <p>■ ヒヤリハット等での、事例の収集・分析数がやや少なく、事故防止のために、一層の取り組みが必要です。加えて、その結果を定期的に評価、見直しをしていくことが求められます。</p>		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■ 感染症予防マニュアルが整備されていて、内容も適切です。ただ、感染症には多様な変化があり、定期的な見直しが欠かせません。それに伴い、職員に周知徹底していくためには、定期的な研修も求められます。</p> <p>■ また今後、建て替えに向けては、隔離スペースの有効な確保等の配慮が望まれます。</p>		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>■ 非常時の対応体制が整備されています。安否確認にはline等を活用しています。</p> <p>■ 備蓄の内容や量も適切ですが、これからは、収納場所の複数化も求められるでしょう。</p> <p>■ 今後、早い時点でのBCP作成が必要です。同一敷地内の複数児童施設それぞれの機能を吟味しながら、法人としての計画策定が望まれます。</p>		

## 2 養育・支援の質の確保

<p>(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。</p>	<p>第三者 評価結果</p>
<p>① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。</p>	<p>b</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■養育・支援の実施方法は文書化されています。月一回の専門家による研修等で職員への周知徹底も実施されています。</li> <li>■一方、日々の経過の中での実施状況確認と評価をしていく仕組みが不十分です。実施方法の点検・見直しも含めて、早期に検討していくべき課題です。</li> </ul>	
<p>② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p>	<p>b</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■標準的な実施方法の見直しについては、前項のとおりです。</li> <li>■全員参加の職員会議等で、職員の意見・提案を取り上げ、他方、調査票等によって保護者の意見を尊重する姿勢も伺われました。</li> </ul>	
<p>(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。</p>	
<p>① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。</p>	<p>a</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■施設長を責任者としての自立支援計画策定の体制が整えられています。</li> <li>■アセスメントの手法も適切です。また、職員会議や他の会議に、直接支援以外の専門職が必要に応じて参加し、計画の実効性を高めています。</li> <li>■乳児院の課題である、子どもの意向把握や同意に関しても、さまざまな工夫がみられます。</li> </ul>	
<p>② 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。</p>	<p>a</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自立支援計画の策定要領が作成されており、その中で、計画の見直し・評価に関しても定められています。計画等の見直しについては、都度、職員会議等で周知が図られています。</li> <li>■保護者の意向や同意の方法については、今後もさらなる配慮が期待されます。</li> </ul>	
<p>(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。</p>	
<p>① 44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p>	<p>a</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■子どもの様子、養育・支援の実施状況は、定められた様式により適切に記録されていて、その情報は、職員に共有されています。記入者による差異を防ぐため、記録要領を作成し記録指導にも活用されています。</li> <li>■これから先、PCのさまざまなシステム等を活用することで、データ保存、有益な情報へのアクセスや共有などがより便利で安全な方法を目指すことが期待されます。</li> </ul>	
<p>② 45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p>	<p>a</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個人情報保護に関する規定は定められ、内容も適切です。</li> <li>■施設長が記録管理の責任者となり、漏えいの予防に努めています。外部への持ち出し簿も整備されています。</li> <li>■新人の初任研修に個人情報に関する研修を重視している点は特に評価できます。</li> </ul>	

内容評価基準（23項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	c
【判断した理由・特記事項等】	
■子どもの権利擁護に関する規定の整備と、職員への周知について確認できました。 ■具体的な取り組みとしては、ヒヤリハット等は、事故だけではなく権利侵害の防止や早期発見のためにも活用が必要で、一層の充実が求められます。  *この項目には「b」がないため、「c」評価となります。	
(2) 被措置児童等虐待の防止等	
① A2 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
【判断した理由・特記事項等】	
■「被措置児童等虐待対応要綱」や「不適切なかかわり」が作成され、それらに基づく職員研修が実施されています。 ■不適切なかかわりへの対応については、例えば、通報があった時点で当該職員の一時出勤停止措置をとり、事実解明を優先するなどといった、より素早い対応が必要です。 ■また今後、不適切なかかわりの中身も、おむつの同性交換など、内容・質の変化にも配慮していくことが望まれます。	

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① A3 子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	b
【判断した理由・特記事項等】	
■個別担当制のもと、豊かな養育で愛着を育んでいる施設の様子が確認できました。 ■一般的に乳児院に求められながら不足していることに1対1の対応があります。人手や体制にもよりますが、超過勤務など職員への負担をできるだけ抑える方策として、あらかじめ月間計画等に予定を入れ、子どもと担当職員の二人だけの時間を確保していく方法も検討してください。 ■今後のハード整備に向けて、こうした「個別を過ごすスペース」の確保についても工夫・検討が望まれます。	
② A4 子どもの生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	b
【判断した理由・特記事項等】	
■子どもたちが、よく遊べるように施設環境が整えられています。周辺の自然環境も豊かです。また日用品の個別化もなされています。 ■建て替えに向けては、職員の思いを結集して、より家庭的な、子どもたちにとって最良の小舎の計画を期待します。	
③ A5 子どもの発達を支援する環境を整えている。	a
【判断した理由・特記事項等】	
■。子ども一人ひとり、また月齢・年齢の違いによる丁寧な対応は、乳児院の最も大事な部分です。先輩から後輩職員へ伝統が上手く受け継がれ、良好な養育・支援環境が整っています。	

(2) 食生活

① A6 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。

a

【判断した理由・特記事項等】

■発達段階によって必要な一人飲みを除いて、『一人飲みをさせない』という方向性・意識は共有されています。この点を全職員に徹底しておかないと、日常の忙しさにまぎれ慣習化していく恐れもあり、十分に気をつけたいところです。

② A7 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。

a

【判断した理由・特記事項等】

■概ね、良好な配慮がなされています。厨房職員も、食の現場に参加し一体となって取り組んでいます。離乳食の種類や内容も充分なことが確認できました。一人ひとりに合わせた豊かな離乳食メニューは乳児院の強みの一つです。

③ A8 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。

a

【判断した理由・特記事項等】

■食事場所、いすやテーブル、食器等は適切な調整がなされています。  
■何より、職員が食生活の大事さ・豊さを知り、子どもと一緒に楽しもうという姿勢がみられました。子どもが食べたいものを言葉で言えなくても、職員が食べ方や表情を観察して、次に生かすための把握を心がけています。

④ A9 栄養管理に十分な注意を払っている。

a

【判断した理由・特記事項等】

■栄養面、季節感のある豊かな献立、個々の状態への配慮等、適切な栄養管理がなされています。  
■子どもの嗜好面も、厨房と現場職員が共同して把握に努めています。子どもの目前で焼きそば等を調理したり、鳥や魚を丸焼きの状態でご飯に提供したりと、さまざまに工夫しながらの食育も実施されています。

(3) 日常生活等の支援

① A10 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。

a

【判断した理由・特記事項等】

■衣類の個別化、個別収納がなされています。衣服購入は担当職員ですが、季節、材質、月齢、等々細かな配慮のもと購入・使用されています。デザイン等は、現段階では担当職員の判断ですが、これからのルールも検討されています。

② A11 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。

b

【判断した理由・特記事項等】

■寝具や寝着の素材や季節性、大きさその他の選択に配慮つつ、睡眠状態の観察も丁寧に行われています。個々の子どもの好みも尊重し、好きな柄の寝具や、ぬいぐるみの添い寝にも配慮されています。  
■いま現在、寝室の空調に不十分な点があります。近々、メンテナンス（場合によっては取り換え）が予定されているようです。

③ A12 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。

a

【判断した理由・特記事項等】

■快適な入浴ができるよう配慮し、実践されています。設備の内容も清潔さも確認できました。  
■望むべきは親子入浴の実施です。個別対応時間の確保にも通じますが、大人と子どもと一緒に入浴することは大事です。できる限り機会を増やしていけるよう努めてください。

	<p>④ A13 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。</p>	b
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■便座への誘導やおむつ交換は丁寧になされています。</li> <li>■個々の幼児のリズムや気持ちに合わせていくことは重要です。構造上の事情で現状では困難であっても、小舎化完了の際には、「外せないこと」との認識が望まれます。</li> </ul>		
	<p>⑤ A14 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。</p>	a
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■施設内でも、自然豊かな戸外でも、楽しく遊んでいる様子が伺えました。玩具の個別化、子どもが自由に出し入れできる収納の工夫もされています。</li> </ul>		
<p>(4) 健康</p>		
	<p>① A15 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。</p>	a
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■施設内にあった診療所が、外に移ってしまいましたが、それでも密接な連携が保たれています。</li> <li>■予防接種の適切な実施、アレルギー出現への注意、アレルギー児への対応も十分になされています。</li> </ul>		
	<p>② A16 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。</p>	a
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■病・虚弱児の健康管理は、適切に対応されています。</li> <li>■ヒヤリハットに服薬に関することが散見されましたが、引き続き、十分注意して臨まれることを期待します。</li> </ul>		
<p>(5) 心理的ケア</p>		
	<p>① A17 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。</p>	b
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■外部からの専門家による指導・助言は長期にわたって定期的になされています。</li> <li>■2名の家庭支援専門相談員のうち、一人は心理士とチームを組み支援に当たっています。</li> <li>■心理職が果たす家庭支援上の役割も大きく、面会後の振り返りや子どもの心理状況を伝えたりするなかで、保護者の心理的サポートにも有効に機能しています。今後は、職員に向けて、家庭支援全般の研修、また個別の乳幼児・保護者支援に関するコンサルテーションを実施するなど、さらなる専門性を発揮されることが期待されます。</li> </ul>		
<p>(6) 親子関係の再構築支援等</p>		
	<p>① A18 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。</p>	b
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■施設と保護者の信頼関係を構築するために、家庭支援専門相談員を2名配し、1名は心理士と、1名は副主任とチームを組み対応しています。</li> <li>■振り返りシート等で、事情に合わせて家族に寄り添うようにしています。</li> <li>■面会が無い、少ない保護者には、担当職員が手紙や写真で近況等の連絡をしています。</li> </ul>		

② A19 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。

b

【判断した理由・特記事項等】

- 入所理由の理解やケアの方向性については、一週間以内に家庭支援専門相談員と協力しアセスメントを作成しています。
- 面会や外出、外泊を通して、親子関係の好転を図りつつ、家族からの不適切な関わりにも注意を払っています。
- 外部機関との連携や地域に向けてのソーシャルワーク活動は、主に児童相談所を介して行なわれています。直接的な連携や具体的な実践は、今後の課題と言えます。

(7) 養育・支援の継続性とアフターケア

① A20 退所後、子どもが安定した生活を送ることができるよう取り組んでいる。

b

【判断した理由・特記事項等】

- 他施設に退所する子どもには、つなぎ保育を重視し、退所先と連携して取り組んでいます。前項でも触れたように、アフターケアのためにも、家庭支援専門相談員の専任が必要です。他機関との連携も、そこから生じてくるものです。

(8) 継続的な里親支援の体制整備

① A21 継続的な里親支援の体制を整備している。

a

【判断した理由・特記事項等】

- 現在、直属の里親支援専門相談員は不在です。施設が発展的に、里親支援機関（「おひさま」）を立ち上げたためです。
- 「おひさま」と連携して、里親委託の推進や、後のアフターケア等に取り組んでいます。里親募集、里親研修、里親のレスパイトにも協同して取り組んでいます。また、直属の里親支援専門相談員も着任予定とのことです。

(9) 一時保護委託への対応

① A22 一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。

b

【判断した理由・特記事項等】

- 一時保護に関するマニュアルは、現在整備計画中です。
- 健康管理等入所生活は、他の入所児と差はありません。一時保護後の養育については、十分な支援を行なえていません。

② A23 緊急一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。

b

【判断した理由・特記事項等】

- 出来るだけ、受け入れを行なっています。A緊急が多く、観察機関や感染症への隔離観察等は十分にはできていません。
- これまで多くの一時保護ケースは入所に繋がっており一時保護に特化したマニュアルの必要性は特にはないとのことです。
- 「観察室」は設けられていません。入所すぐであっても他児から孤立する状況は敢えてつくりたくないという考えで対応されています。